

公共事業再評価調書

整理番号 H15 - 16

担当部課室名	県土整備部 道路課	電話番号	0 1 7 - 732 - 9651
		E - MAIL	doro @ags.pref.aomori.jp

再評価実施要件	未着工 長期継続 () 年) 再評価後 (5 年) その他 ()
---------	-------------------------------------

1 事業概要

事業種別	国道改築事業	事業主体	県 市町村 其他()				
事業名	国道103号道路改築事業	地区名等	宇樽部バイパス 市町村名 十和田湖町				
事業方法	国庫補助 県単独	財源・負担区分	国 55% 県 45% 市町村 % 其他 %				
採択年度	平成 元 年度 (用地着手 平成 元 年度 / 工事着手 平成 7 年度)						
終了予定年度	平成 1 8 年度 () 年 月計画変更 当初計画時 1 7 年度)						
事業目的	・急カーブ、急勾配が連続した交通の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保及び本事業により勾配が緩和されることから排ガス等も軽減され環境保全が図られる。さらに、十和田湖の通年観光拡大にも寄与するものである。						
主な内容	全体延長 L = 3 , 7 6 0 m 幅員 W = 6 . 5 (1 3 . 0) m トンネル工 L = 1 , 1 4 5 m 橋梁 1 基 L = 2 2 . 5 m						
事業費	再評価時総事業費 <u>8,520</u> 百万円 (単位:百万円)						
		~12年度	13年度	14年度	15年度	小計	16年度~ 合計
	計 画 (うち用地費)	()	()	()	()	7,487 (417)	1,498 (83) 8,985 (500)
	実 績 (うち用地費)	2,737 (362)	1,435 (5)	600 (0)	1,830 (0)	6,602 (367)	2,383 (133) 8,985 (500)

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			73.5 % [/]	88.2 % [/]
			(73.4 %) [/]	(88 %) [/]
	主要工種毎割合 (事業費)	改良工 (8,093百万円)	76.3 %	91.6 %
橋梁工 (58百万円)		100 %	120.8 %	
舗装工 (334百万円)		0 %	0 %	
用地 (500百万円)		面積割合 92.3 %	面積割合 110.8 %	
説明	・本バイパス計画において、トンネル工事のため期間を要しているものの、阻害要因等なくほぼ計画どおりに進捗する見込みである。また、用地未取得地は、地権者から道路工事の直前に移転したいとの申し入れによるもので、今後工事の進捗と調整を図りながら交渉を進め、解決する見込みである。			
問題点・解決見込み	-			
事業効果発現状況	-			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 ・従前各分野別の長期計画、道路であれば「道路整備五ヶ年計画」を策定していたが、国土交通省内の各分野を統合した「社会資本整備重点計画」を今年度策定することになっている。 ・道路特定財源については、暫定税率の適用期限を5年間延長することとなっている。	【県内の評価】 ・公共交通機関の未整備な本県にとって、車を主とする交通に頼らざるを得ない状況であるが、まだ未整備区間が多く(国・県道の改良率 全国71.5%、東北6県74.5% 青森県69.2%)、さらに豪雪地帯であり冬期の安全確保や社会基盤整備としての道路整備に対する要望は多い。
	当地区における評価	・国道103号は、特に青森県側に未整備区間が多く(青森県改良率84.1%、秋田県改良率99.5%)しかも当該地区の宇樽部~休屋間は、急カーブ、急勾配が連続した交通の隘路区間であり、冬期の安全確保のためにも早期の道路整備が求められている。	
必要性	・当該路線は、県が管理・整備する国道である。 ・当該地区の宇樽部~休屋間は、急カーブ(最小曲線R=15)、急勾配(最大勾配I=13%)の交通の隘路区間であり、冬期の安全確保のためにも計画的な整備を求められている。 ・災害対策基本法に基づく緊急輸送道路ネットワーク計画の中に位置付けられている。 ・県内の主要都市の青森市及び八戸市から十和田湖観光の拠点休屋を結ぶ観光ルートで、特に冬期間は他に代替のない唯一の道路で、早期に整備を求められている。 ・当該地区の2次救急病院は、十和田市内にありアクセス性が高まり、医療サービスが向上する。 ・道路の整備に関するプログラムにおいては、環境に配慮し豊かな自然を守り、自然資源を有効活用した道路として位置付けられている。		(a) ・ b
適時性	・緊急輸送道路でありながら代替のない唯一の道路であり、上記の通りの隘路区間となっているため、早期の整備を求められている。 ・十和田湖冬物語などの観光に対するイベントなどが盛んに催されるようになってきており、さらに平成14年度新幹線八戸駅開業に伴い、観光客が増大し通年観光拡大のため道路整備の必要性が高まっている。		(a) ・ b
地元の推進体制等	・八戸市長を会長とする三戸郡等の市町村長で構成する北奥羽開発促進協議会より、宇樽部バイパスの早期完成を要望されている。 ・国有林管理者側との所管換手続きが完了しているほか、環境省との国立公園事業の同意事項変更協議及び鳥獣保護区特別保護地区内における協議も完了し、関係機関との推進体制が整っている。		(a) ・ b
効率性	・道路整備により、十和田湖の通年観光に寄与し、地域の活性化、経済発展に効果がある。 ・縦断勾配を緩和することにより自然環境の保全にも寄与する。 ・緊急輸送路の確保の面からも大きな効果がある。		

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	再評価時	再々評価時	増 減
費用項目 (C)	(1) 事業費	7,813 百万円	9,888 百万円	2,075 百万円
	(2) 維持管理費	706 百万円	824 百万円	118 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	8,519 百万円	10,712 百万円	2,193 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	12,983 百万円	16,775 百万円	3,792 百万円
	(2) 走行経費減少便益	977 百万円	777 百万円	200 百万円
	(3) 交通事故減少便益	212 百万円	24 百万円	188 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	14,172 百万円	17,576 百万円	3,404 百万円
	B / C	1.66	1.64	
【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等)				
費用便益分析マニュアル(案) 道路・街路事業				
【費用対効果分析における特記事項】				
事業費の増加により、B / Cは多少低くなったものの同水準にある。				

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A) ・ B ・ C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・ 路盤材・舗装材に再生材を使用し、経費の縮減を図っている。 ・ 建設発生土(トンネル発生土)を盛土材料として使用し、経費の縮減を図っている。	(a) ・ b
代替案	【代替案の検討状況】 ・ トンネル内に曲線を設けるルート、トンネル終点側で沢を避けたルートを代替案として検討したが、トンネル工区における経済性や安全性・施工性を考慮すると、現ルートが優れている。	(a) ・ b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A) ・ B ・ C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 ・ 八戸市長を会長とする三戸郡等の市町村長で構成する北奥羽開発促進協議会より、宇樽部バイパスの早期完成を望む旨の要望が県へ出されている。	【住民ニーズ・意見】 ・ 東北新幹線八戸駅開業に伴う観光需要の増大に対応し、時間距離の短縮及び交通の安全確保にむけた交通基盤整備が急務であり、本バイパスの早期完成を求めている。	(a) ・ b
環境影響への配慮	【地域別環境配慮指針への対応】 (1) 地域区分 <input type="text" value="K7a"/> (2) 対応状況 <input type="text" value="配慮している"/> <input type="text" value="配慮していない"/>	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 配慮している <input type="text" value=""/> 配慮していない <input type="text" value=""/>	(a) ・ b
地域の立地特性	【特記事項】 ・ 当該工区は、十和田八幡平国定公園内であるため、環境庁(現環境省)から鳥獣保護区特別保護地区内における工作物の設置許可申請を行い許可を得ている。また、動植物に関して環境調査を実施しており、本事業からの影響は無いことを確認している。 ・ 当該地域は、過疎地域、特別豪雪地域及び原子力発電施設等立地地域になっており、本路線は緊急輸送道路としても位置づけられている。 ・ 十和田八幡平国定公園内の道路(青森鹿角線)として位置づけられている。 ・ 十和田湖への観光ルートとなっており、特に冬期間は他に代替のない唯一の道路である。 ・ 当該地区の2次救急病院は十和田市内にあり、そのアクセシビリティ向上が求められている。		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続 <input type="text" value=""/> 計画変更 <input type="text" value=""/> 中止 <input type="text" value=""/> 休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	・ 平成18年度には、完成供用する予定となっており、継続して事業を進め事業効果の早期発現を図る。
備考	

4 公共事業再評価審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり <input type="text" value=""/> 対応方針(案)を修正すべき <input type="text" value=""/>
委員会評価	継続 <input type="text" value=""/> 計画変更 <input type="text" value=""/> 中止 <input type="text" value=""/> 休止 (林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見	
評価理由	